



2024年10月23日

各位

会社名 株式会社インターアクション
代表者名 代表取締役社長 木地 伸雄
(コード番号 7725 東証プライム市場)
問合せ先 社長室 I R 担当
電話番号 045-263-9220

2025年5月期第1四半期決算説明会 質疑応答(要旨)

当社は、2024年10月11日に2025年5月期第1四半期決算説明会をオンライン配信により実施いたしました。本資料は、同説明会での質疑応答について主な内容をまとめ、公表するものです。なお、理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

質問1：連結業績において、売上総利益率が50%以上となっている要因を教えてください。

回答1：主にIoT関連事業において製品ミックスが改善されている事等が要因と認識している。

質問2：2025年5月期通期業績予想の修正について、営業利益が期初時点予想と比較して微増している背景としては、貸倒引当金の戻し入れが要因か。もしくは、当第1四半期の営業利益が想定より伸びたことが要因か教えてください。

回答2：貸倒引当金の戻し入れと、当第1四半期において主にIoT関連事業が想定よりも好調に推移したこと等を踏まえ修正している。

質問3：2025年5月期通期業績予想の修正について、海外顧客に関する要因も含まれているかについて教えてください。

回答3：通期業績予想の修正について、海外顧客に関する要因は含まれていない。また、中長期的には海外主要顧客からの設備投資需要が見込まれるものの、明確な投資タイミングについては不透明な状況が続いている。

質問4：IoT 関連事業について、第2 四半期に納品を予定していた案件の一部が、当第1 四半期へ前倒しとなった背景を教えてください。

回答4：背景としては、新型 iPhone の販売等によってスマートフォン市場が好調だった事や、イメージセンサの大判化に伴う設備投資需要の増加等によるものであると推測している。

質問5：IoT 関連事業の通期の見通しについて、当第1 四半期に納品が前倒しで進んだ事を踏まえると、第2 四半期以降の予想が保守的に見えるが、特に瞳モジュール®については第2 四半期以降も販売が好調に推移するのか等、予想の背景を教えてください。

回答5：瞳モジュール®に関しては、現時点での引合い状況やシェア状況、新製品の開発状況等を踏まえ慎重な予想となっている。一方で、国内顧客からの引合い状況の変化や海外主要顧客への量産導入の進捗状況等によっては、前期と同様に下半期で瞳モジュール®の受注が積上がる可能性もあると想定している。

質問6：2025 年5 月期通期業績予想の修正について、営業利益が約140 百万円の増加となっているが、そのうち貸倒引当金の戻し入れが約70 百万円となっている。残りの約70 百万円が当第1 四半期における瞳モジュール®の上振れ分と考えてよいか。

回答6：それ以外の要素もあるが、概ねその認識で合っている。通期業績予想の達成は勿論、瞳モジュール®及び光源装置のさらなる受注獲得に向けベストを尽くしていきたいと考えている。

質問7：2025 年5 月期通期業績予想について、当第1 四半期時点の連結受注残高から想定すると、第2 四半期以降さらに2,000 百万円程度の受注及び売上が必要だと想定しているが、IoT 関連事業における受注の見通しについて教えてください。特に国内顧客向けの改造案件や、海外顧客からの引合い及び受注のタイミング等について、具体的に教えてください。

回答7：IoT 関連事業の受注の見通しについて、瞳モジュール®においては、期中受注・期中売上が下半期も進んでいくと想定している。光源装置においては、国内顧客の設備投資計画はある程度見通せており、現状見通し切れていないその他の案件についても追加の受注獲得を目指す。

海外顧客については、主要顧客・欧州顧客・米国顧客における引合いを確実に受注に繋げ下半期に積み上げていくことにより、計画の達成は可能だと見込んでいる。また、IoT 関連事業以外の事業については、前期に比べ受注高が上振れている事業（インダストリー 4.0 推進事業）や、引合いを強くいただいている案件もあるため、グループ全体としても目標数値は達成できると想定している。一方で、現在の弊社グループにおける製品構成では設備投資の波の影響を受けやすく、それに伴って受注高・受注残高も大きく変動してしまうという課題があるため、今後は「VG (Value Generation) 戦略室」のもと、顧客の設備投資状況への依存度を低減する取り組みを推進し、付加価値の高い製品の導入を目指していく。

質問 8 : IoT 関連事業について、国内顧客からの引合いは光源装置の出荷案件か、もしくは光源装置の改造案件かについて教えて欲しい。

回答 8 : 国内顧客からの引合いについては光源装置の出荷案件。

質問 9 : AI 画像処理装置事業について、半導体市場向け製品のスケジュールが変更されているが、デモ機の評価項目追加とはどのようなイメージか。追加された評価項目の詳細や、評価項目を追加することによる量産方法の変化等があれば教えて欲しい。また、AI 画像処理装置の製造拠点や人材についても教えて欲しい。

回答 9 : AI 画像処理装置事業については、現在顧客へデモ機を納入しており、顧客が用意したサンプル品に対してほとんどの検査を問題なくクリアしている。しかし、顧客からの要望で新たにレアケースの検査項目が追加され、それに伴うサンプル品の収集に時間を要している状況となっている。また、装置の開発及び製造については、弊社グループ会社である株式会社東京テクニカルの足利工場で行っており、専任チームを組んで取り組んでいる。

質問 10 : VG 戦略室の顧問や執行役員のバックアップについて、AI 画像処理装置分野に対しても顧問等のサポートやアドバイスがされるのか。また顧問等はどうような分野に注目してアドバイスをする想定なのか教えて欲しい。

回答 10 : VG 戦略室へのバックアップについては、大手 FA メーカーの出身者を顧問として迎え、組織全体として収益性が高くなるような仕組みを作るためのアドバイスをしてもらう想定 (AI 画像処理装置分野も含む)。

また、現時点で顧問等が特に関心を寄せているのは半導体関連分野であり、デバイスの進化を追いながら、顧客の真のニーズに合致した、付加価値及び収益性の高い製品の開発を行い、既存顧客以外にも展開していくことを目指している。

以上